



JAC北九だより

No.71 (平成27年 第1号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
 支部長 伊藤 久次郎
 事務局:福岡市早良区昭代 3-9-5-502
 山田 武史方
 TEL-FAX 自宅 092-844-3563
 携帯 090-6422-5662
 編集人: 森 義雄
 印刷: 山口県山口市水の上町2-25
 内 藤 製 本 所

あけましておめでとうございます



2015年 新年のご挨拶

初仕事は「改訂新日本山岳誌」の校正調査から
 支部長 伊藤久次郎

昨年中は、皆様のご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。おかげさまで昨年1年間、通常会員が4人、支部友会員が13人の入会がありました。この中で支部友の女性入会がめざましく、勧誘した先輩女性会員たちの活躍が光っています。

そして、園川陽造顧問の発想と熱意ある指導で、若手会員の指導員検定と研修会が昨年からはまり、12人応募の中から現在8人の会員が新指導員第1期生として研修に励んでいます。今年も第2期生を募集しますので、熱意のある人はどうぞ事務局へ申し込んで下さい。

今年は、二つの大きな行事が控えておりますが、その前に急きょ「改訂新日本山岳誌」が日本山岳会創立110周年記念に合わせて発行されます。

これは初版「日本山嶽志」が明治29年に発行され、その後70周年で復刻版が発行されました。そして100周年記念のとき、現在の「新日本山岳誌」が発行されましたが、時代の経過で山の状況も変わっています。そのため「改訂新日本山岳誌」が今年発行されるものです。

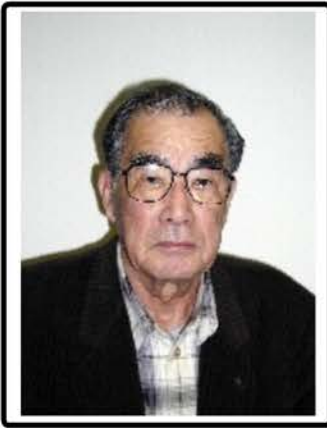
この作業に北九州支部には59座が割り当てられ、その校正原稿の締め切りが2カ月後の3月末となっています。期間が短いので、支部の総力を挙げて

これに取り組まなければなりません。多くの支部会員の参加をお願いいたします。

その他の記念行事のその一つは「山の日」です。平成26年11月、山の日が「8月11日」に決まりました。本格的な国民の祝日として実施されるのは来年からになりますが、今後毎年、山の日をどのような行事にしていかが課題です。

その二つは、日本山岳会創立110周年記念事業です。本部では、12月の年次晩餐会と記念行事を同時に行うことを計画しています。記念山行では、学生部による女子ヒマラヤ登山隊が既に派遣され登頂に成功し、続いて男子学生による登山隊も出発します。その他三百名山記念ツアー登山など計画されています。当支部としても、支部創立15周年を迎えますが、現在役員会で考えている計画はまだ話の段階ですが、海外トレッキング、国内登山、英彦山修験道を歩くなどの計画と、支部会員が制作した山の写真、絵画展と山の古道具展などの文化活動も計画予定です。

これらは、すべて会員全員の参加が必要です。計画が決まったらぜひ参加していただくようお願いいたします。



元北九州支部長 秦野一彦先生を偲ぶ

副支部長

関口 興洋

平成26年9月24日の「日本山岳会だより」の訃報欄で、元北九州支部長の秦野先生が9月10日に89歳で逝去されたとの報に接した。

突然のニュースで青天の霹靂であった。あの偉丈夫な先生が突然他界されるとはまったく想像すらできなかった。平成25年末、支部忘年の集いに出席して頂きたくお誘いの電話をかけたのが最後の会話となった。

秦野先生は2002年9月8日に開催された臨時総会で北九州支部の第2代支部長に選任され、10月より新体制がスタートした。私もその時から役員の一員として支部運営に関わることになった。支部長就任にあたって述べられた「山田二郎元会長の『生命を大切に、仲間を大切に、自然を大切に』という言葉に感銘し、この三つの基本原則をふまえて新しい陣容で体制を整え、明るく楽しい和気藹々の支部にしたいと願っております」とのごあいさつが、その後の支部運営に如実に反映されたのではなからうか。

2005年に迎える日本山岳会創立100周年記念事業の目玉である中央分水嶺踏査が創立間もない北九州支部にとり、はたして実行できるのか大いに疑問視された。特に担当地域の大半が山口県の分水嶺であり、北九州の会員にはなじみの薄いところであった。そのような状況下で、支部長は下関山岳会の伊藤会長にお会いし事業達成のための助言を頂くなど率先して行動されたことが印象深い。

山口県と島根県の県境に位置する仏峠から2004年4月11日にスタートした分水嶺踏査も会員の熱心な取り組みが実を結び2005年5月8日、いよいよ最後の区間である貴山～平尾台の踏査を残すのみとなり、当日秦野支部長以下多数の会員が参加され220kmに及び中央分水嶺踏査が完結した。午後から平尾台のキャンプ場で支部長出席の下、完結記念の野外パーティを行い、60日に及び踏査が無事終了したことを祝った。

この中央分水嶺踏査をやり遂げたことが、支部会員の団結と絆を深め、その後の支部活動に大いに寄与したことを秦野支部長はもっとも喜ばれていた。

また、2005年の関西支部創立70周年記念の集いが高野山で開かれた時には、新門司から大阪南港まで夜行便のフェリーに乗り2等船室で参加メンバーと車座になってお酒を酌み交わされるなど、ざっく

ばらんなお人柄が滲み出たお付き合いを頂いたことなど思い出が尽きない。普段は寡黙な高潔の士であったが、お酒が大好きで酒席では学生時代の登山にまつわる武勇伝などを時々語っていたことが懐かしく思い出される。

秦野先生は「漢方薬草」の権威で1977(昭和52)年、「セリ科植物の細胞遺伝学的研究」で九州大学より薬学博士の学位を授与された学者であり、九州大学薬学部講師として、漢方薬の本場である中国からの留学生の研究指導をされていた。高齢になり辞めたいと大学に申し出ているが、なかなか暇をだしてもらえないとぼやかれていたこともあった。

ある時は血倉山の登山口から車道を登りながら携帯マイクを使って、車道の脇に生えている植物の中から薬草を探し出し懇切丁寧に解説していただいたこともあった。頂上付近には八幡薬劑師会が管理する薬草園があり、ここでもいろいろな薬草を教えてもらった。

支部創立5周年(2005年)の記念行事が英彦山の森の家で開催された折、本部から平山会長が来訪され記念講演をしていただいた。その後、秦野支部長(当時80歳)は平山会長に同行し林道経由、九重の法華院温泉に入った。翌日、北千里へ登り諏蛾守越えをされたことが思い出深い。

秦野先生が支部長在任中には、支部の統治に関わる全く予期せぬ出来事が発生したり、支部の舵取りでご苦労されたこともありましたが、北九州支部の発展にご尽力いただいたことに深く感謝し心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

<略歴>

秦野一彦(はたの・かずひこ) 会員番号4325

1925(大正14年)1月21日 愛知県に生まれる。

1953(昭和28年) 京都薬科大学卒

1955(昭和30年)10月 J A C 初回入会

1996(平成8年)9月 J A C 復活入会

北九州支部長在籍期間：2002年～2006年

本部評議員在籍期間：2007年～2010年

2014年(平成26年)9月10日逝去(享年89歳)

(注) 山田二郎元日本山岳会会長(1989.5～1993.5)

(会員番号3473、名誉会員・永年会員)は

2014年12月18日逝去された。享年92歳

(2014年12月23日記)

「改訂新日本山岳誌」の発行に伴う

改訂事項の確認作業実施(期日:3月末まで)

支部長 伊藤 久次郎

「新日本山岳誌」が発行されて10年目の今年は、創立110周年記念企画の一環として本年11月に「改訂新日本山岳誌」として出版すべく現在進行中です。

この10年間に市町村合併による地名変更や災害などによるコースや標高の変更などの改訂事項の確認校正作業を致します。北九州支部は山口県の山22座、福岡県の山37座、合わせて59座の山を調査して、3月末までに報告をしなければなりません。役員会で支部会員に各地域の山を担当していただくことになりましたので、ご指名を受けた会員はよろしくご協力のほどお願いします。

にほんさんかくし

「日本山嶽志」について

公益社団法人日本山岳会は、1905年(明治38年)、小島烏水(本名・久太)、高頭仁兵衛(本名・式(しよく))、武田久吉ほか計7人の発起人によって設立され、今年(2015年)は、創立110周年を迎える。その創立当時の明治39年、新日本山岳誌の原型ともいえる図書『日本山嶽志』が、高頭仁兵衛により発行された。

高頭仁兵衛は、1877年新潟県の豪農の跡取り息子として生まれた。明治31年富士に登り志賀重昂の『日本風景論』を読んで登山欲はさらに強まる。この年の秋、八海山、苗場山に登るが、家人に知れ危険というので登山を禁止された。そのはけ口として地誌、紀行を読みあさり、その書き抜きをもとに『日本名山鈔』を著わした。雑誌『太陽』を通じて小島烏水を知り、また志賀重昂にも教示を仰ぎ、これを『日本山嶽志』と改め明治39年博文館から発行した。

日本の山岳に関する百科事典的大冊であった。仁兵衛は、日本山岳会発足に当たっては財政面から強力な支持を惜まず、当時の1000人分の年会費を寄付した。また『山岳』の発行人として第1年から28年間尽力。小島烏水のあとを受け、昭和8年から10年まで第二代会長を務めた。(山溪の世界山岳百科事典参考)

その後昭和50年、日本山岳会創立70周年記念で『日本山嶽志』の復刻版(写真1)が発行された。

当時の会長は今西錦司であった。それから創立100周年記念の2005年に、内容を近代風に一新して「新日本山岳誌」(写真2)が発行されたのである。

その当時、わが北九州支部は誕生して間がなく、

その図書の発行には関わっていなかった。

この「新日本山岳誌」は全国支部の会員が、自ら登り、執筆した記録で、日本全国の北から南へ、日本百名山はもとより無名の山々まで、現地の岳人が全国4000山の最新情報をわかりやすく解説している。



写真1 日本山嶽志



写真2 新日本山岳誌

平成26年度支部長会議の報告

支部長 伊藤久次郎

今年の支部長会議は12月6日午前10時30分から、年次晩餐会会場と同じ新宿の京王プラザホテル47階で開催されました。そのため、私一人が一足先に北九州空港から午前7時発の飛行機で出発しました。その会議の内容を簡単に報告します。

1. 森会長挨拶

今後の将来を見据えた場合、若い連中のユースクラブをより強化して活動を活発化していくということと、支部の活性化という二つが大きな課題である。それは会員増強と次期リーダーの育成という具体策でやっていきたいと初心を述べてきたが、この一年半、支部の皆さんはよく協力してくれて感謝している。この二つの延長線上には、会報「山」9月号の記事に書いているように、JACには高齢化という70歳代の大きなヤマがあり、10年後はさらに厳しくなり、財政基盤を確立することが今後の課題である。そのためには会員サービスの向上ということも併せて検討していく必要がある。本部でもプロジェクトチームを二つ立ち上げ、前回の合同会議で支部の皆さんから会友(支部友)制度というのを聞いて非常に参考になった。それをベースにして検討を始めたところである。

2. 議事

①会務報告

● 110周年記念事業(黒川副会長)

- ・三百名山刊行(出版済み)
- ・東海支部のインドヒマラヤ予定 ほか計画中
- ・安全登山について
- ・遭難対策(川瀬理事)

支部主催山行では、登山計画書を提出するようにした。個人山行は含まない。留守本部は、複数記入すること。家族ではなく山岳会の活動できる人を。事故発生時の留守本部の複数記入と本部あての電話、3人(順位)。

事故発生時のマスクミ対応は留守本部が行う。

- ・支部事業委員会(宮崎委員長)

講習会は来年度(27年度)も引き続き行う。

支部のイベントに併せて講習会を実施することも予定している。アイデアをお寄せいただきたい。

- ・ユースクラブの講習会(古野副会長)

昨年から立山の国立登山研究所で開催している。若い人の参加を希望している。

- ・日本山岳会の説明会について

日本山岳会のホームページについて、9月20日から1カ月間に8666回のアクセスがあった。

このクリック数の中で一番多かったのが「入会について」であった。入会するだけでなく、入会しない方に対しても説明できる説明会を開催したい(永田理事)。

ホームページだけでなく、年に5~6回の説明会を開催し、支部からも参加して説明してもらいたい。今のところ本部のルームで夜に開催予定。

- ・新日本山岳誌の改訂版発行について
(節田副会長)

10年前に発行した新日本山岳誌の改訂版を来年発行する。各支部に校正をお願いする。締め切り3月末。

- ・平成26年度秩父宮記念山岳賞について
(黒川副会長)

受賞者 大澤雅彦氏

業績「湿潤アジア山岳の垂直分布帯の成立と保全に関する生態学的研究」

②財政問題について(吉川理事)

会員の減少、高齢者の会費滞納、永年会員の増加などで会費収入が減って赤字に陥っている。

このままでは日本山岳会の財政は破綻する。

財政再建と復活への方策は、会が公益法人化し、山岳団体では唯一の寄付の税額控除を認められる法人に指定されたことから、寄付や助成金を活用して事業活動を活発化したり、会員制度や会員サービスの改革など、会員増強のための方策はまだまだ工夫の余地があると思われる。

- ・各支部からの意見

岩手、東海、関西、四国、山梨の各支部から活発な意見が出された。

③平成27年度全国支部懇談会(四国支部)主管

について、4月11日(土)~4月12日(日)

高松市で開催。(第3回小島烏水祭と併催)

以上

横有恒略歴碑設置1周年記念の集い 14264 丹下洽

日本山岳会及び地元山の会による「1周年記念の集い」を風師山で開催します。

当日、日本山岳会森会長がご出席される予定となっております。

●と き：平成27年4月19日(日) 11:30(開始)

●と ころ：北九州市門司区風師山(風頭)

JR門司港駅から清滝を通り、風師山展望台駐車場から徒歩15分

当日のスケジュール

受付 10時30分 展望台駐車場に集合

記念の集い 11時30分開始～12時終了(予定)

昼食会 13時～13時45分

(小倉ステーションホテル7階)

出席者 日本山岳会及び地元山の会有志

参加費 2000円(昼食料金)

昼食会出席希望者は事務局へ申し込んでください

問い合わせ先 事務局(山田武史092-844-3563)

平成27年度 16回通常総会開催のお知らせ 事務局長 山田 武史

●と き：平成27年4月19日(日)

●と ころ：小倉ステーションホテル

北九州市小倉北区浅野1-1-1

TEL:093-541-7111

●スケジュール

1、受付 午後2時から

2、記念講演 午後3時～午後4時(予定)
(講演の内容は調整中です)

3、総会 午後4時30分～午後5時30分

4、懇親会 午後6時～午後8時

5、会費 5,500円(税込み)

6、締切 3月末

(3月別途送付の案内状に同封のハガキに

出欠を記載の上、返信の事)

7、問い合わせ 事務局まで(山田武 092-844-3563)

尚、今回は当支部の会友でもあります日本山岳会の森会長が出席される予定です。

森会長と接する絶好の機会ですので、是非多数の参加を願います。

以上

図書紹介

「防長山野へのいざない」第4集 著者 金光康資氏

著者(金光康資)は、日本山岳会京都・滋賀支部会員で、山口県の山陽小野田市に居住。

平成8年(1996)に『防長山野へのいざない第1集』を初出版し、平成13年の第3集まで山口県内500山掲載という目標を達成した。その後増版の要望が多く平成19年に第1集改訂版を出版したが、登り残した山、新たに発見した山など、未掲載であることが悔やまれ、新たな視点で捉えた状況を加え、今回第4集を出版したものである。テリトリーである北九州支部にとって有力な登山資料になる。

○B5版 544頁(カラー16頁) 267山

定価2300円+税 平成26年12月15日発行

○山口県下主要書店、登山用品、スポーツ店等で販売。入手困難な方は、直接下記の何れかへ申し込んで下さい。

①〒756-0824 山陽小野田市中心3-2-27

金光康資 様(別途送料が必要)

TEL・FAX 0836-84-2370

メールアドレス scpny886@ybb.ne.jp

②北九州支部会員 原 広美宛(メール、電話、FAXで)。

(北九州支部ルーム着なら送料不要)

なお、上記図書は、本年1月著者金光康資氏から、当支部へ寄贈を受けたものです。ルームの蔵書として常設展示いたします。



12月6日(土) 年次晩餐会に出席して 「会の歴史や重みを肌に感じました！」 15624 三浦利夫



晩餐会壇上にて参加者

第16回秩父宮記念山岳賞表彰(受賞者:大澤雅彦氏)、会長特別賞表彰(成川隆顕氏)と続き、いよいよ新入会員紹介です。北九州支部から参加の新入会員4人も緊張した面持ちで登壇しました。新入会員を代表して、日本山岳会初代会長小島鳥水(本名久太)氏のお孫さんである小島誠氏が挨拶されました。その後、皇太子殿下もご登壇され鏡開きが行われ、乾杯歓談となりました。3時間程の晩餐会も無事閉会し、その後支部の出席者と二次会で交流を深

12月6日(土)東京・新宿京王プラザホテルのコンコードボールルームで開催された平成26年度年次晩餐会に出席させていただきました。9月22日付で通常会員となり初めての経験でしたが、皇太子殿下もご臨席され格調高い、とても印象に残る出来事でした。

私は支部出席者の中で単身福岡空港より出発し、会場に午後1時30分過ぎ到着しました。

受付が終わり、図書交換会・スケッチ展・グッズ販売会場へ移動し、会員の皆様を持ち寄られた絵画や、書籍を拝見しました。グッズのコーナーでは晩餐会出席の記念にと思い帽子やバンダナ等を購入しました。

その後、午後2時過ぎより講演会を拝聴しました。

- ①日本山岳会学生部 女子ムスタン登山隊 報告
- ②2014年度 秩父宮記念山岳賞 受賞記念講演 「湿潤アジア山岳の垂直分布帯の成立と保全に関する生態学的研究」(熱帯高山と温帯高山の垂直分布はどう違うのか) 全てを拝聴する事は出来ませんでしたが、その中でも女子登山隊の報告は、日本を代表するアルパイン女性クライマー「谷口けい」さんをアドバイザーとした登山隊のビデオ映像を用いた報告で、登山意欲をそそられる内容でした。

●晩餐会

午後6時より晩餐会が開始されました。森会長のごあいさつ、物故者への黙祷、新永年会員の発表、

めさせていただきます。

今回は北九州支部より16人、全体で510人程が参加した晩餐会でしたが、参加して本当に良かったと思います。日本山岳会の歴史や重みを肌で感じる事が出来ました。今後は、山行技術の習得だけではなく、日本山岳会の会員として品格をも備えていかなければならないのだと感じました。

最後になりますが、今回エスコートして頂きました支部の皆様へ感謝を申し上げます。



晩餐会壇上にて新通常会員

参加者 16人

会員:伊藤久次郎、関口興洋、日向祥剛、原広美、山崎和子、井上禮子、高島拓生、丹下治、大木康子、丹下香代子、森義雄、深田英美、清家智絵、大谷恵美子、奥田スマ子、三浦利夫

12月7日(土) 年次晩餐会記念山行 鉄砲木の頭(明神山1290㍎)、高指山(1174㍎) 富士山を背景に大パノラマ登山

15505

清家智絵



鉄砲木の頭山頂にて

●晩餐会

12/6(土) 待ちに待った晩餐会へ出発。北九州はとて寒く雪がチラチラ。東京の天気を気にしながら、10時10分北九州空港発—11時40分羽田空港着の便で東京へ。

東京はとて暖かく青空が見えひとまずホッとしました。明日もこの天気が続けばと思いながら、新宿京王プラザホテルへ。ホテル到着後、晩餐会用の衣装に着替え、講演会へ。講演会では谷口けいさんの2014年アラスカ州デナリ国立公園、ルース氷河で4本の新ルートの開拓を聞き、自分の知らない未知への挑戦、どんな過酷な場所でも楽しむということに感銘を受けました。

午後6時から晩餐会が開始、公務のお忙しいなか皇太子さまがご出席され、総勢510人ほどが会場を埋め尽くしました。森会長のあいさつからはじまり、いよいよ新入会員紹介45人が壇上にあがりました。何と2~3m前に皇太子さまが!!! とてにこやかで優しい笑顔がとて印象的でした。二度とないこのような体験にとて感動しました。それから乾杯、たる酒、ワイン、おいしい料理を堪能し、午後9時に閉会となりました。

それから2次会に向かいました。新宿から地下鉄に乗り込み、途中パブニングもありましたが、銀座ライオンで初めてのオペラ鑑賞。

●記念山行

12/7(日) 記念山行は、山中湖東部鉄砲木の頭と高指山。天気は快晴、8時に新宿駅西口へ集合、100人ほどが大型バス2台に乗り込み出発。中央高速道を西に向かう、雪化粧した富士山がだんだんと大きくなっていきました。はじめてまじかに富士山を見ながら、10時山中湖パノラマ台駐車場に到着。絶景

の撮影スポットということもあり、すでに数台の車が駐車中で、観光客の人々が富士山をパチリパチリ。

10時10分天候にも恵まれ、駐車場の中を通過して登山道へ、サクツ、サクツ、ジャリと心地音。少しえぐれた溝になった登山道、左右には背の高いカヤトの野原がずっと続いて、振り返るといつも富士山がそこにいます。富士山、山中湖、南アルプス、何度も振り返り、富士山を見つめていました。10時50分カヤトが広がる鉄砲木の頭(明神山1291㍎)に到着。またまた見とれてしまう

ほどの絶景、青空、富士山、山中湖、南アルプス、とて美しい。富士山を背景に集合写真を撮りました。11時鉄砲木の頭山頂出発し、歩き始めるとさっきまでの登山道とはガラッと変わり、そこに広がるのは背の高い木々がどこまでも続く落葉した広葉樹林の森。途中、昼食をとり、なだらかな山肌、左右に広がる広葉樹林、少しフカフカした足場、晴れた空と太陽の光が差し込む樹林帯を進み、切通峠へ。方向をかえて左手に富士山、手前に山中湖を見ながら、カヤトの中、緩やかな登りが続き、午後1時高指山山頂へ到着。またまた絶景富士山!!! 午後1時10分下山開始、来た道を戻り、富士箱根伊豆国立公園の看板のある分岐から平野へ下る。振り向くと美しいカヤトの原。また、少し下って別荘地の裏手を通り抜け、振り向くと別荘の上にベージュの頭をした高指山。午後1時40分平野バス待合所に到着。予定よりも2時間も早い到着。さすが日本山岳会!!!

途中、富士吉田道の駅でお土産を買い、富士山にお別れ。午後4時30分新宿駅西口に到着。1日富士山を堪能した山行でした。帰りは、予定より早いため、思わぬ時間ができたので羽田空港で一杯。

午後9時15分羽田空港発—午後11時05分北九州空港着に乗り、空港で解散。

伊藤支部長、関口副支部長、丹下さんをはじめ北九州支部の皆さん、大変お世話になりました。お疲れ様でした。貴重な体験、夢のような2日間でした。ありがとうございました。

参加者 12人

会員：伊藤久次郎、関口興洋、原広美、井上禮子、高島拓生、丹下洽、大木康子、丹下香代子、森義雄、清家智絵、大谷恵美子、奥田スマ子、

12月13日(土)

平成26年度支部忘年の集い 14689

大内喜代子



今年の支部忘年の集いは、下関でということになり、私がお世話することになりました。初めに会場の予約、会費の予算は？ 下関シーモールパレスは以前利用したことがありましたので、担当者に会い、10月の会報の通り予約完了です。次に考えついた事は、忘年会で美食・美酒でお腹一杯になっては体に良くないと思い、それならば先に運動してカロリーの消耗を計るのはどうだろうか、忘年記念登山を計画することにしました。下関の名峰竜王山(613.9m)は私にとってのトレーニング登山の山です。皆様を案内することに心が弾む思いでした。

しかし、計画はよしとして、忘年の集い、山行と

両方の参加者の名簿作成に始まり、忘年の集いの受付、司会進行係、テーブルの配置、オークションはどのようにする等々、不安材料で頭の中がいっぱいでした。

開催日1週間前位から、事柄が決まり始め、オークションの品物を会場に搬入してからは、会場の方はほぼ片付いた感じになりました。

忘年の集いは、出席者35人で午後5時30分から内藤正美会員の司会ではじまり、まず9月に亡くなられた秦野元支部長への黙祷を出席者全員で行いました。

次に伊藤支部長からのあいさつがありました。



この1年間の活動や来年支部発足15周年記念事業のため役員会で計画が練られていることの紹介がありました。乾杯後、歓談がはじまり、会員相互の久しぶりの再会に会場もにぎわいました。途中、平成26年度の新通常会員及び新支部友の紹介があり、次に各テーブルの出席者がそれぞれの自己紹介を行い、また、事務局から今後の山行計画の紹介などがありました。最後に出席者期待のオークションがはじまり、井上禮子会員司会のかけ声で品々が紹介され、コート、帽子、ザックなどが次々と落札されました。今年はゲームも取り入れ豪華？景品が当たった方もいました。最後に記念撮影を行い、終了しました。今週に入り天候も冬型となり、記念山行の実施が心配されましたが、どうにか天候も良くなり、無事終えることができました。忘年の集いも多くの会員が

出席され楽しく終わることができました。会の開催にあたりご協力いただきました会員の方に厚くお礼申し上げます。

忘年の集い参加者 35人

会員：大庭常生、大城戸昌敏、原広美、板倉健一、伊藤久次郎、井上禮子、馬場基介、高畠拓生、関口興洋、藤田傳、内藤正美、丹下洽、武永計介、大木康子、榊俊一、丹下香代子、大内喜代子、竹本正幸、竹本加代子、森本信子、木原充、池田智彦、赤瀬榮吉、縄手修、森義雄、深田英美、歳弘逸郎、大谷恵美子、奥田スマ子、三浦利夫、倉本とき子

支部友：清家幸三、田中貴大、中野裕美、永井敏子

忘年の集い記念山行

竜王山(613.9m)に登る

14875 木原 充



ぶ響灘を望み、北には鬼ヶ城と南には北九州市が望めた。地元会員の説明では天気の良い日には由布岳が見えるとのこと。

13時10分下山開始。途中で日露戦争戦勝記念の征露記念燈籠に立ち寄った後、竜王神社上宮、中宮を經由して14時25分吉見登山口に全員無事に下山。迎えに来たバスで吉見温泉センターに向かい、温泉に浸かって登山の疲れをとった後、忘年の集い会場のシーモールパレスに向けて出発。

9時45分JR新下関駅前集合。マイカーで深坂茶屋駐車場へ移動。10時25分、今にもみぞれか雪でも降り出しそうな空模様の中を竜王山へ向けて登山開始。深坂溜池のダム堤防を歩き、やや紅葉の盛りを過ぎたもみじ谷を通り、牝鋤先山、雄鋤先山を經由して、昔船舶で使われていたという鐘のある竜王山頂(613.9m)に12時34分到着。山口の地元会員の一部は忘年の集いの準備のために先に下山することなので、早々に記念の集合写真を撮った後、寒風が吹きすさぶ中、凍えながら急いで昼食をとった。山頂からの眺望は天候の具合であまり良くはなかったが、それでも東に周防灘、西に蓋井島が浮か

天候は今一つで、時折小雪の舞う寒い一日でしたが、記憶に残る楽しい山行になりました。リーダーの大内会員をはじめ、地元・山口の会員の皆様には本当にお世話になりました。有り難うございました。

参加者 19人

会員：リーダー大内喜代子、井上禮子、高畠拓生、関口興洋、丹下洽、丹下香代子、竹本正幸、竹本加代子、森本信子、木原充、赤瀬榮吉、森義雄、歳弘逸郎、大谷恵美子、奥田スマ子、倉本とき子
支部友：清家幸三、田中貴大

10月18日(土)~19日(日)

第30回全国支部懇談会(埼玉大会)に参加して

15387 森 義雄



壇上にて埼玉支部会員の皆さん

10月18日から19日、埼玉県秩父市で全国支部懇談会(埼玉支部主管)が開催されました。

全国から約200人が参加、当支部からは、伊藤支部長、関口副支部長、原会員、大谷会員、森の5人が参加しました。

18日(土)早朝北九州空港を出発、羽田空港、京浜急行、山手線、池袋から西武池袋線に乗り換える。

車内は他支部の参加者も乗り合わせる。1時間ほどで西武秩父駅に到着。風景も東京から埼玉県に入り、セメント会社の大きな建物が見える。会場へは送迎バスでナチュラルファームシティ農園ホテルへ向かう。ホテルは高台にあり、周辺は農園風景が見える。

●懇談会

午後2時到着、受付を済ませて講演会場へ入る。

埼玉支部長の開始式のあいさつがあり、講演の1題目は埼玉県警山岳救助隊飯田雅彦副隊長から「埼玉の山岳遭難事例と安全対策」の訓話があった。山岳救助隊は、30人の隊員、航空隊はヘリ3機を保有し、埼玉県内の山岳地帯を管轄エリアとしている。平成25年度の全国の遭難件数は2,172件で前年度に比べ184件増加、遭難者2,713人(死亡者320人)で248人増加、中高年の登山ブームの高まり傾向に伴い、遭難件数も増加傾向。遭難の原因は、①道迷い、②滑落、③転倒の順となっている。埼玉県でも増加傾向(H25年67件、H26年は既に55件)、遭難者の死亡者も8人で明日登る武甲山、両神山での滑落事故もある。また、遭難救助活動を通じての事例、伝えたいことなどが紹介された。(別に表記)

2題目は、秩父まるごとジオパーク推進協議会吉田健一氏から「日本地質学発祥の地・秩父からの報告」があった。奥秩父の険しい山岳地帯では貴重な自然が見られ、山に囲まれた盆地内では独自の風土が味わえる。大都市の近くにも関わらず残る秩父の自然に求めるものが「資源から癒しへ」と変わり、その良さを楽しむ取組みがあり、ジオ(地球)パーク秩父の取り組みの紹介があった。

休憩をはさみ、午後5時50分から懇親会がはじまる。主管の

埼玉支部長が歓迎のあいさつ、続いて森会長があいさつ、来賓の紹介があり、鏡割りではじまった。途中、余興(南米地方の民族音楽:フォルクローレの演奏、秩父屋台ばやし)、各支部の紹介などがあり、会場は大いに盛り上がり、久しぶりの再会で写真撮影が多くみられ、午後8時30分終了した。

部屋に戻り、くつろいでいるところに、北海道支部の長谷川雄助さん(当支部の会友)の表敬訪問を受け、深夜まで山行の談義で大いに盛りあがった。当支部と北海道支部は毎年交流があり、当支部にも北海道支部の会友が2人いる。

●記念山行

19日(日)は、①両神山、②武甲山、③琴平丘陵の各グループにわかれての記念山行。当支部は①両神山は関口副支部長、大谷会員、森、②武甲山は伊藤支部長、原会員でそれぞれにわかれて登る。

この欄では、私が登った両神山の山行を紹介する。ホテルから貸切りバス(山道が狭いためマイクロバスを使用)で市内を抜けて、30分ほどで、狭い山道に入る。車1台がやっと通れる道幅、曲がりくねりながら進む。出発して約1時間で登山口の白井差(しらいざす)新道登山口に到着。マイクロバス2台、50人の登山のため5班に分かれる。われわれ北九州支部3人は最後尾の5班となる。準備体操を行い、点呼後ただちに出発。白井差新道は個人所有のため、事前の許可があるそうで環境整備料1,000円が必要。白井差新道規則が掲示されている。

登山道は整備されており、歩きやすい、それほど急登もなく、川に沿って進む。

前方に落差18mの昇竜の滝が見える。その先は急登の尾根をジグザグに登る。最後尾の班で列をなして登るため、休憩も多く、きつさを感じない。

前方の登る後ろ姿を見ると姿勢がまっすぐで登る方が目につく、さすが健脚の方が参考になる。約2時間30分ほどで山頂手前に着く。日曜日の紅葉がはじまる季節、登山者も多く、山頂は狭く混雑しているとか。5分ほど待ち、狭い岩場をあがり山頂(1723m)へ到着。両神社の奥社が祀られている。山頂で記念の写真を撮り、直ぐに下りる。樹林帯の中で昼食。山頂近くは紅葉も少し見えるがまだ早い。

下りは、登ってきた道に戻る。途中、登るグループと出会う。どっかで見た顔、そういえば昨晚酒を酌み交わした北海道支部の長谷川さんグループ。予定を変更し、急ぎよ両神山の登山となったらしい。

われわれグループは約2時間で無事下山した。下山後、記念バッチを受け取る。両神山は九州の者にとっては交通の便が悪く、なかなか山行の機会がないと思われる。今回有り難い記念山行となった。

お世話の埼玉支部に感謝・感謝。

さて、別グループの武甲山の山行は伊藤支部長、原会員の話では、下りが歩きづらく大変だったとか。両神山で良かった。

平成27年度の支部懇談会、主管は四国支部で4月11日(土)~12日(日)高松市で開催されるとの発表があった。



両神山



武甲山

(守ってほしいこと)

埼玉県警山岳救助隊飯田雅彦副隊長の遭難救助活動で思うこと。

- 1、登山届を提出してほしい。
⇒行方不明の登山者は登山届の未提出が多い、迅速な捜索活動ができない。
- 2、パーティでのセルフレスキューを実施すること。
⇒捜索隊が到着するまでパーティでの救援処置が全くなされていないことがある。
リーダーは呼ぶだけではなく、初期の手当てをしてほしい。
- 3、パーティでも他人任せの登山をしない。
⇒地図が読めない、計画を知らないメンバーがいる。自分で勉強を。
- 4、山を知らない街ランナーは、トレールランで山岳地を走らないこと。
- 5、救助を要請して、逃げないでほしい。
⇒救助を要請したあと、救助の必要がなくなったとの判断で無断で立ち去る者がいる。
- 6、ツアー登山は無責任になりやすいので注意。
⇒現在も無責任な業者やガイドがいるので十分注意することが必要。
- 7、山ガール、山ボーイの遭難多発
⇒個人での山登りが多く、山を良く知らない者が多い、山岳会の先輩は入会を勧誘して勉強させてほしい。
- 8、「ながら」……という登山をしない。
⇒話しながら、地図を見ながらの歩きは危険、やめること。

そのほか、季節によってはクマ、ハチ対策が必要、ストックのゴムキャップは草木の保護も大切だが安全に登山するには滑るのではずして使用する。

以上のことを登るにあたってお願いしたいとの話があった。

参加者 5人

懇談会： 伊藤久次郎、関口興洋、原広美、森義雄、大谷恵美子

記念山行

両神山：関口興洋、森義雄、大谷恵美子

武甲山：伊藤久次郎、原広美

10月20日(月) 埼玉全国支部懇談会アフター山行 雨の中、谷川岳(1963m)に登る 15387 森 義雄



谷川岳トマノ耳

10月20日(月) 曇りから雨。全国支部懇談会の翌日、群馬県谷川岳に登った。19日前日秩父から熊谷駅経由で湯檜曾温泉に移動し、ホテルで記念山行の疲れを癒す。

20日(月) 早朝、ホテルからタクシーで谷川岳ロープウェイ土合口駅に到着、10分ほどで天神平駅(標高1,310m)へ。天神平山頂駅からは遠く双耳峰の谷川岳、東方には白毛門、笠ヶ岳、朝日岳の三山がくっきりと見える、天神平は冬スキー場となるため天神峠へのリフトがある。スキー場の正面のバーンは最大傾斜34度あり、かなりの急斜面。われわれ5人はリフトに乗らず、登山口から田尻尾根方向へ向かい山頂を目指す。緩やかな整備された木道を登る。紅葉の季節でもあり昨日は大勢の登山客で賑わったとか。今日は平日で登山者も多くない。右手遠くには

尾瀬の至仏山が見える。1時間ほどで熊穴沢避難小屋(1460m)に到着し、休憩。避難小屋はいっぱい入れない。

リフトで天神峠に登り、小屋まで下った登山者も多いようだ。小屋からは直ぐに急登の鎖場が続く。軽装の登山者もいて足がおぼつかない様子。岩場を越えながら進む。樹林帯を抜けると西黒尾根が右手に見える。途中、雨になる。われわれも雨具を着用し、足元に注意しながら山頂を目指す。だんだんとガスがかかり、遠くが見えない。ガシ場が多くなり、整備されているが滑り易い。1時間30分ほどで肩の小屋に到着。

小屋の中は登山者でいっぱいである。雨具を用意していない軽装登山者もいる。気温も下がり肌寒いが、気軽に登れると考えているようだ。雨が激しくなるが、メンバーもせめてトマノ耳(1963m)までは登ろうと頑張り山頂へ。10分ほどで到着する。この先、オキノ耳(1977m)があるが次回に残して下山することにする。小屋の外で休憩し、直ぐに下山開始。足元も悪く、雨で岩場が滑り易い、ゆっくりくだる。危ないので下山者も手を付きながら岩場をくだる者もいる。避難小屋を経て午後3時30分に天神平駅に到着。視界が良ければ、遠くの山並みが見えるのだが。土合口駅から上毛高原駅に向かう。途中、タクシーの運転手から、谷川岳で亡くなった登山者の碑を紹介され、同僚の追悼でお参りに来られる方もいるとの話を聞いた。今回は、残念ながら名所の一ノ倉沢の岩壁を時間がなく見られなかった。

参加者 5人

会員：リーダー関口興洋、伊藤久次郎、原広美、大谷恵美子、森義雄

心残りの谷川岳に登る！

11990 原 広美

今回の山行は心残りのあった谷川岳。以前違うルートで近くまで登ったが、谷川岳山頂を眺めるだけで下山した。そのために、今回機会に恵まれて全国支部懇談会の翌日に登ることになった。

天神平までロープウェイを利用する。双耳峰の谷川岳を見上げると天を突くような高度感がある。

木道を1時間くらい登っていくと熊穴沢避難小屋に着き、ちょっとひと休み。これより鎖やロープのある急登が始まる。

肩の小屋を目前に雨が降り出したが雲は下のほうにあり気分は良い。雨が降りだすなかでの登り、ここまで来たんだからと自分に言い聞かせて、足元の

悪いな登った。今回2度目の谷川岳登山でやっと山頂トマノの耳(1963m)をタッチ出来た。本当に来てよかった。満足した感慨深い登山の一つとなった。



避難小屋で

11月22日～23日

2014年度自然保護全国集會に出席

13992 事務局長 山田武史



全国集會

23日(日)

●10:00より 平和公園にて山岳平和祭(UAAA創立20周年記念行事と合同)

●13:30より 別の会場にて国際山岳フォーラム「登山と山岳自然保護」(UAAA創立20周年記念行事と合同)

9人の発表(内日本人6人)はすべて英語であり、通訳なし。

●16:30にて 国際山岳フォーラムは終了。

当支部の2人はここまでの参加にて、会場をあとにして帰路についた。

以上

平成26年11月22日(土)～24日(月・祝)、広島で開催された自然保護全国集會に当支部より高島会員と山田の2人が参加しましたので、その内容について概略報告いたします。

参加者： 3人

山田武史、高島拓生

井上佑(山口県山岳連盟から参加)

22日(土)

●10:00より広島工業大学の広島校舎会場で受付

●11:00より 自然保護全国集會が開催された。

最初に近藤雅幸自然保護委員長の挨拶、主催地の兼森志郎広島支部長の挨拶によりスタート。

参加者は森会長以下JAC本部の関係者と全国15支部から51人及び広島支部から31人合計82人だった。昼食をはさんで午前と午後にわたり各支部からの報告。更に別テーマとして宮城支部より「宮城の山地、丘陵における放射線測定結果」について報告があった。

又、基調講演として「里山資本主義 里山が宝の山に変わる瞬間」と題して、NHK大阪チーフプロデューサー井上恭介氏の講演があった。(詳細は、ルームに保管の資料をご参照)。

●18:00より 別の会場にて懇親夕食会。

今回は日本山岳協会主催の「アジア山岳連盟(UAAA)創立20周年記念式典も同時に開催されており、懇親会は合同での開催となり、海外より13ヶ国約80人の参加があり、会場は400人を越える盛大な懇親夕食会でした。



森会長と支部参加者



講演会

11月2日(日)~3日(月) 第30回宮崎ウエストーン祭 ウエストンの功績をたたえ、30回目の記念祭 15387 森 義雄



三秀台にて

今回30回目を迎える宮崎ウエストーン祭は、26年11月2日(日)宮崎県高千穂町五カ所三秀台で開催された。

当日は、地元関係者、山を愛する団体・個人、日本山岳会の九州各支部が集まり、北九州支部も13人の参加、特に今年は半数が初参加者であった。

宿泊場所の五カ所ひめゆりセンターへ車で集合し、宮崎支部の案内で受付を済ませ、スケジュール確認をして、ウエストーン祭式典会場へ徒歩で向かう。会場からは祖母山をはじめ阿蘇山、久住山の三つの秀峰を望むことができ、秋も終え冬景色の中、開会されました。

宮崎ウエストーン祭は、日本近代登山の父として知られる英国人宣教師ウォルター・ウエストーン師が明治時代に祖母山に登った史実を記念したことから、師をしのび、山岳遭難者に哀悼の意を表し、登山の安全を祈るため、毎年開催されている。

最初に地元田原小学校生徒代表が8歳のウエストーン碑に点鐘し、献花を行う。地元町長、日本山岳会

宮崎支部長のあいさつと朗読があり、ウエストーン祭の歌合唱が行われ、30分ほどで閉会しました。

その後、いったん宿泊会場へ戻り、明日の山行等のミーティングがあり、午後6時から地区主催の交流会会場へ移動しました。

会場は神事ではじまり、神楽、キャンプファイヤー、地元の皆さんの歌やダンスの披露、本陣太鼓などが次々とあり、周辺では特産物の販売などが行われ、地区の多くの皆さんも参加していました。夕方からはあいにくの雨となり、かなり冷え込み、会場内ではかつぼ酒がふるまわれ、寒い中、つまみを片手にお酒を飲みながらの交流でした。

日本山岳会からの参加メンバーは8時30分からの5支部交流会のため、宿泊場所のひめゆりセンターへ戻り、懇親会をはじめました。宮崎支部の温かいもてなしによる食事とお酒をいただきながら、各支部の近況、活動が紹介されました。当支部も13人という大勢の参加で個人ごとの自己紹介を行いました。

また、地元センターの職員の飛び入り参加もあり、午後10時過ぎまで大いににぎわいました。

今回2日間を通して、宿泊・食事の手配、山行案内などをしていただきました宮崎支部の皆さんのおもてなしにあらためてお礼を申し上げます。

参加者 13人

会員：リーダー山田武史、井上禮子、内藤正美、竹本加代子、森本信子、縄手修、大谷恵美子、森義雄、三浦利夫、奥田スマ子、

支部友：清家幸三、加藤信子、中野裕美

11月3日(祝) 宮崎ウエストーン祭記念山行 山容が織りなす、溪谷美豊かな比叡山(760[㍎])に登る 15616 奥田 スマ子



カラノコロン岩にて

11月3日(月)前日の夕方からの雨もあがり、天候は快晴。今日私たちが登る山は、宮崎県大崩山地にある比叡山。私は宮崎の山に関心を抱きながらも、近くて遠い存在でなかなか行く機会がなかった。それだけに山への期待も大きくなる。

参加者は地元宮崎支部20人、熊本支部5人、私たち北九州支部13人の総勢38人は11台の車に分乗して五カ所町ひめゆりセンターを出発した。

街路樹の紅葉を見ながら国道218号線を通り比叡山登山口駐車場に無事到着したときには、昨日他支部との交流会で飲みすぎ、食べ過ぎて重かった体はすっかり登山モードになっていた。

私たちは準備体操後、千畳敷登山口へと向かう。少し歩いたところで垂直にそそり立つ大岩壁が目飛び込んできた。比叡山はロッククライミングの名所である。岸壁には数人のクライマーの姿が見えた。「すごいねえ」と遠くから皆で見上げる。そして、千畳敷登山口(北側)から登山開始。

10分ほど歩くと千畳敷展望台に着いた。岩肌をひき出しにした矢筈岳が渓谷を挟み正面に見える。宮崎支部によるとその昔、比叡山と矢筈岳はひとつの山だったそうである。ながい間の浸食によってふたつの山に分かれ絶景を造りだしていた。

これから先の登山道は本格的な岩場の急登が続いた。足場の悪い所や危険な場所ではリーダーが声掛けをさせていただき有り難かった。足元に注意を払いながら一峰を目指した。

一峰からは尾根歩きである。道がふかふかして気持ちがいい。小さなアップダウンを楽しんでいるうちに傾斜がきつくなってきた。しばらくすると大きな岩が現れた。これが通称「カランコロン岩(864m)」だった。地元の人たちはこの岩を山頂とみなして登るそうである。人ひとりが通れる岩と岩の隙間に掛かったはしご、ロープを頼りに登っていくと岩上に着いた。釣鐘山、鹿納山、鬼の目山など宮崎

県の山々が広がっていた。岩上は30人以上の登山者で混雑していたが、この雄大な景色のなかでの昼食の弁当はとてもおいしかった。

下山は来た道を分岐まで戻り、山頂(760m)を踏んでから比較的ゆるやかな道を南側登山口へと下山した。山に登らずに私たちを待っていた宮崎支部の方は、予定時刻より1時間早く下山した私たちに対して「北九州支部の精鋭たち」と言って迎えていただいた。

日本山岳会宮崎支部の方々には2日間お世話になり、また暖かいおもてなしの食事などに感謝、感謝の2日間となりました

参加者 13人

会員：リーダー山田武史、井上禮子、内藤正美、竹本加代子、森本信子、縄手修、大谷恵美子、森義雄、三浦利夫、奥田スマ子、
支部友：清家幸三、加藤信子、中野裕美

●コースタイム：

- ・高千穂町ひめゆりセンター(7:50分発)
- ～榎峰大橋～千畳敷登山口(10:00)
- 北側登山口(10:15)～千畳敷展望台(10:25)
- ～分岐(11:30)～カランコロン岩(12:15)
- 昼食(12:50)～分岐～比叡山山頂(13:20)
- ～分岐～南側登山口着(14:30)

宮崎比叡山 山にはパワースポットがある 北九446 清家幸三

26年は私にとって最も多くの山行と初体験を積み重ねた1年でした。

以前より山行に対して周りの人達から「どうして山に登るの?」と聞かれ「達成感です」と回答していました。今回の山行でわかったのは、各々の山にはパワースポットなるものがあるんだということ・・・そこに行けば人間が生きものとして生かされる場あるいは癒される場があるのではと思うようになりました。下山後の爽快感は達成感とこのスポットから生まれるのではないかと思います。各人により異なるかと思いますが、今回の比叡山では尾根道に存在する巨石があると私は思いました。今回、女性の方が多かったのも豊富な感受性がこのパワースポットをとらえているからではないかと思いました。

また、最近山ガールが増えている理由の一つでは

ないかと勝手に思いました。山行は疲れを伴いますが、すっきりした爽快感を感じるのには山(大自然)に在するパワースポットに生きた身が触れることにより生き生きと出来るのではないかと思います。この魅力を山行の意味を問う周りの人達に伝えて行こうと思っています。私にとって今回の比叡山の山行で楽しみが一つ増えてきました。



清家幸三さん

岩登り教室 9月27日(日) 平尾台 汗をかいた初挑戦のロッククライミング教室 北九457 畑井 教子

岩場での経験がほとんどない私にとって初級クラスのカルチャーでさえ、時間のかかる迷いと冷や汗の連続であった。

上級クラスは鬼の唐手岩でロープで懸垂しながらの登りだが、そんな登りが私にはまだ想像すらできない。なぜなら、かなり丸みのある岩場での手足の置場、持ち場の判断に時間がかかるのである。足でしっかり支えなければと思っていても、どうしても自分の指先の方へ体を支えようと力が入ってしまう。これは登る前よりも自分

の体感やバランス感覚を養わなければならない。

そういった状態だと体が左右になぜかブレてしまう。しかも空中でだ。それでも地上でないスリルと、岩を見て触る楽しさだけは心に残ったので嫌になんてなかった。

又、他にも救いがあった。周りの方々が私の先生になって沢山アドバイスをいただいた事と、縄手さんが愛妻愛犬を連れて様子を見に来られたので、とても和やかな昼食となった。

そして、カンカンに照った空の青さと平尾台のコントラストが何とも言えない。

ロッククライミングで大切な事は、まず命を支えるザイルワークのロープの手順と手足の置場、体の角度や使い方であり、私の課題となった事は言うでもない。

道具を貸していただいた山田さん、車に同乗させていただいた竹本さんご夫婦と森本さん、岩登りの基礎を終始教えてくださった板倉先生に心から感謝を伝えたい。

参加者 11人

会員：リーダー竹本正幸、板倉健一、竹本加代子、森本信子、森義雄、歳弘逸郎、

支部友：畑井教子、俵富士夫、藤井信義、藤井淳子、目原礼子

岩登り教室 10月19日(日) 陶ヶ岳(230㍎) 緊張のあとは爽快感 北九454 坂井義臣



陶ヶ岳にて

今回は、10月19日に山口市の陶ヶ岳で行われた岩登り教室に参加しました。仕事の関係で、今年の4月から長く慣れ親しんできた小倉から、実家のある大牟田へ転居し、山岳会企画への参加も縁遠くなくなってしまい、今回は久しぶりの参加でした。大牟田市から山口までとなると、かなりの移動距離

となり、今回は前日から新山口駅そばのビジネスホテルに前泊。数日前から、自宅でハーネスを着用、エイトノットを繰り返し練習してイメージトレーニングもバッチリ。

今日は天気も快晴。忘れ物なし！体調よし！準備万端、いざ陶ヶ岳へ！

竹本さんから事前に丁寧な説明

のメールをいただいていたので、集合場所には迷わずたどり着くことができました。集合時間となり、参加者全員そろって岩場へと移動。

今回は、竹本さんの指示で参加者のレベルに合わせて3グループに分かれて登ることになり、私は俵さんに教えを乞うこととなった。

イメージトレーニングは完璧であったが、今回は久しぶりの岩登りだったので、自分としては、とりあえず初心者クラスで懸垂下降の練習から始めようと思っていたのだが、その場の流れでいきなりルートに登ることとなってしまった。大丈夫だろうか？

●午前中「国体ルート」

まずは午前中「国体ルート」と名付けられたルートに挑戦。ここから見上げてもゴール地点は見えないほどに高い。私に登れるだろうか？ 俵さんがトップをとり、私がビレイ。登り始めた俵さんはあっという間にクリア。まるでスパイダーマンである。「準備できたら登ってきていいよ〜」俵さんの上からの合図で、今度は私の番。1ピッチ目は手がかり足がかりも

多く、私にも何とか登ることができた。ところが2ピッチ目以降はさすがにルートの傾斜もきつくなり、手足を置く場所や順番を考えないと行き詰ってしまう。ホールドを手探りで見つけながら、バランスを確保する。それから右足を岩のクラックに引っ掛けて、う～ん、これでは次の身動きが取れない…。それなら右足ではなく左足を先に動かして、体を持ち上げてから、右手であのてっぱりをつかんで、よし！ うまくいった。トップの俵さんの登りを思い出しながら、何とか見よう見まねで団体ルートを完登することができた。

●午後「一般ルート」

昼食をとり、みんなで縄手さんから美味しいコーヒーをごちそうになった後、午後からは「一般ルート」と名付けられたルートに挑戦。こちらは1ピッチ目からけっこうシビアなコースで、その名前とは違って私にとってはあまり「一般的」とは思えないルートであった。

それでも何とか文字通り手探りで登り、2ピッチまでかろうじてクリアできた。そしていよいよ最

終ピッチ。しかし、そこから先のルートがわからない。罰が当たりそうだが、壁に掘られた仏様の頭の上を左にトラバースして、上に向かうしか方法はなさそうだが、そこから先のボルトの間隔が遠く、確保が取れない。しばらく俵さんと二人で途方に暮れるが、意を決して俵さんが登り始める。俵さんも最初は苦心しながらも登っていき、このコースの核心と思われる、最終点直下にあるチョックストーンのクラックまで到達、試行錯誤の末これを攻略し、最終点に到達した。さすがである。さて次は私の番だが…。はっきり言って自信がない。集合時間も迫っており、登り始めたはいいが、時間切れで途中撤退の可能性もある。迷っている私に俵さんが「大丈夫！ 登ってこい！」と声をかけてくれた。

私も覚悟を決めて、俵さんの登ったルートを思い出しながら登る。ここを左にこうトラバースして、それからあのクラックに足をかけつつ上に進んで、いったんこの岩に上る、それから右へルートをとって、なんとかここまで登ったぞ！

よし！ 最後のチョックストーンのクラックだ。しかし、クラックが広すぎて、手も足も引っ掛からない。さてどうしたものかと思ったとき、俵さんの登りを思い出して、クラックに足を太ももまで突っ込み、曲げてみた。あっ？ 効いた！ 全身を使いクラックを上までずり上がり、抜け出ることができた。あとは勢いで最終点まで何とか到達。安全な場所まで移動し、俵さんと熱い握手を交わす。山頂に立ち、見渡す景色は、登山道を上ってきたときに眺める景色とは、また違ったものに見えた。

最後になりましたが、今回ご指導いただいた俵さんをはじめ、参加の皆様、大変お世話になりました。さらなるレベルアップを目指して、次回も参加したいと思えます。

参加者 10人

会員：リーダー竹本正幸、板倉健一、竹本加代子、森本信子、縄手修、歳弘逸郎
支部友：坂井義臣、俵富士夫、藤井信義、藤井淳子、

岩登り教室に思うこと

14852 竹本正幸

山には岩壁や岩稜もある。目的を達成するためには、安全に登るための技術が必要である。

当教室は、本格的なロッククライミングではなく、3点支持や岩場を歩くといった最も基本的なことができるように「初心者岩登り教室」という形でスタートした。

しかし、回を重ねるにしたがい、参加メンバーも固定化され「もう少し本格的な岩登りがしたい」という声も聞かれるようになり、平尾台の唐手岩から山口県の陶ヶ岳にレベルアップし

た。

おかし「本チャン」にも復活していただきマンツーマンの指導も可能になってきた。

26年度は4回計画し、3回実行できた。参加者は10人～11人と定着し、延人数は37人になる。

「槍ヶ岳や剣岳登山の時に教室の成果でスムーズに歩けた」との意見もあった。

岩場でのルートファインディングは、山を歩くときの次の一歩につながる。また岩場での重心移動は、雪壁や急斜面の登下りやトラバースにも通じる。

クライミングは、腕の筋力や握力ではなく基本的に足で登ること、そして全身の柔軟性さらに、重心移動のバランス等が要求される。登山も岩登りの基礎から始めると、事故も少ないのではと思う。

今後は、教室を続けながら、岩登り同好会等を組織化できれば素晴らしいと思う。



講習会

定例山行 11月16日(日)
孔大寺山(499m)~湯川山(471m)縦走
照葉樹の林と眼下に広がる海
15138 縄田 正芳



孔大寺山頂にて

コースタイム

孔大寺山登山口 9:45→孔大寺神社 10:20→孔大寺山 11:00→
 五位の岩 11:25(昼食)→垂水峠 12:40→湯川山 14:10→
 湯川山登山口(承福寺) 15:10

孔大寺山、湯川山は宗像市と岡垣町の境に位置する照葉樹の木々に覆われた秀麗な姿の山です。

昔は宝満山、英彦山とともに修験道の山として大いに栄えたということです。その片鱗は登山口の孔大寺神社遙拝所や中腹の神社また湯川山登山口の承福寺などで感じられました。

下山地点となる湯川山登山口(承福寺)に車を置き、孔大寺山登山口の孔大寺神社遙拝所へ移動して、総勢7人で出発しました。

天気は薄曇りですが、暖かく大変穏やかな日和です。杉並木のなだらかな参道歩きのうち、810段といわれる階段の登りにかかりました。はじめは少々心配でしたが割とゆるやかな傾斜で、また近日中に神社のお祭りがあるということで多くの氏子の方々が出て枝打ちや草刈りなど奉仕活動で参道が整備されていました。おかげで中腹にある孔大寺神社まで快適に歩

くことができました。樹木に覆われた神社の境内には県指定の天然記念物といわれる大きなイチヨウの木があり、見事な黄葉とともに境内一面に落ちている銀杏の実が我々を迎えてくれました。

あの特有な匂いにはまいりましたが手つかずの状態は銀杏拾いの穴場ではないでしょうか。各々お参りの後、急登を登り木々に囲まれた今日の最高峰499mの孔大寺山山頂に到着しました。昼食にはまだ早かったので少し下った五位の岩といわれるところにとどめました。ここは都落ちをした平家の安徳天皇が大雨の中、大きな岩の陰で雨宿りをしたところ、たちまち雨が止み晴れ渡ったということでこの岩に五位の位を授けたという面白い伝説が残っています。ここより車道が通っている垂水峠までは樹林帯の中の乾いた土と枯葉の急な坂道です。一步一步滑らぬように気をつけて降りてい

きました。峠は頻りに車の往来があるとこで、急に俗世界に戻ったような気分になりました。

車道には一台のバスが停まっており、湯川山登山の団体一行のようで、登る途中に大勢の人たちとすれ違いました。湯川山へ至る道は思いのほか急で落ちているどんぐりの実を踏みしめながらのあえぎあえぎ登って行く道でした。

NTT無線中継所あたりで平らになり一息つきましたが相変わらず展望はききません。ようやく山頂手前にあるパラグライダー基地あたりで展望が開けました。眼下に大きく広がる響灘、緑の弧を描く三里松原、遠く北九州、山口北浦の山々が望めます。しばしの間、雄大な展望を楽しむことができました。

平坦な道を5分余りで湯川山山頂へ。平らな山頂よりは玄界灘に浮かぶ大島や地島が望め、山の上では不似合いでしたが玄界灘の海の幸の話にひと華咲きました。ひと休みの後、車を置いてある湯川山登山口(承福寺)を目指して下山を始めました。

多くのロープが張ってある滑り易い坂に気をつけながらひたすら下りました。気が付くと木々の間から差し込む陽の光がだいぶ弱くなっているように感じられました。

時間的な余裕は十分ありましたが晩秋の山の、陽の短さに今更ながら気づかされ早い行動が必要だと思いました。林の道を抜けて段々畑のある明るい斜面に建つ承福寺へ着いたのは午後3時過ぎ。お寺の境内の木々の紅葉は美しく輝いていました。

参加者 7人

会員: リーダー赤瀬榮吉、山田武史、森本信子、縄手修、森義雄、縄田正芳

支部友: 網塚陽子

12月2日(火)宝満山(829㍍)・三郡山(935㍍) 父と登った思い出の山に登る 北九477 中野 裕美

コースタイム

竈門神社9:40～11:40宝満山頂～12:00キャンプ場 昼食12:40
～13:50三郡山頂14:00～15:00キャンプ場15:10～16:50竈門神社



宝満山山頂にて

12月2日(火)未明の北九州の天候は、あいにくの寒空と時折曇が降ったりというもので、今日の山行きはあるのだろうか、思わず確認のメールを参加者へしたものでした。

山行きの計画書に地元であったこの山を目にしたとき、一カ月前にこの会での初登山(宮崎県、比叡山)で、気を良くしていた私は、すかさず行くことを決めました。しかし、この天候。このごろ山に目覚めだした私を、主人は少し心配しながら、また本気なのか冗談なのか、雪がひどくなったら、下山の勇気も必要だよと一言いって、送り出してくれました。

今回の宝満山は私にとってはとても思い出深い山です。若い頃登山が趣味だった父に連れられ、当時私は小学4、5年?! だったか、弟と3人で登ったこと、そして高校生の時、宝満登山が恒例の行事で、総動員で登った記憶が、よみがえってきました。

一番の記憶は100段の石段です。

小学校の時、軽いランニングシューズのようなもので登ったので、下りのときにつま先に負担がかかり、両足の親指の爪が真っ黒になる血豆をつくって、それが原因で巻き爪となり、これにはずいぶん苦労して、大人になったとき入院手術した経験があります。

そんなことを思い巡らしながら、もちろん今は万全な登山靴を履いてののですが(笑)

風もあり、時折小雪が舞う中を、少し前の紅葉の頃はさぞかしきれいであったであろう竈門神社を出発しました。先に上っている方の情報で、山頂はマイナス2度とのことでした。

寒さ対策をしっかりしての登り始めでしたが、すぐに体は温まり、こまめな休憩の中、服を脱いだり着たりの繰り返しでした。途中、うっす

らと雪が積もっているところもありましたので、休憩でじっとしていると寒さに凍えそうになりました。そんな道中こんなにもあったかしらと思うほど、100段の石段のほかにも、石段はとても多く、少々うんざりでした・・・。

それでも、まずは山頂について、白い祠を目にした時には、そうそうここで親子登山の写真を撮ったと、今は亡き父にも思いを馳せるものでした。

さっと昼食をいただき、次は三郡山目指して再出発です。道も平坦となり、安堵しながら軽快に歩きました。山頂近くのアスファルトの道は凍結していて、滑らないように、転ばないように歩きながら、山頂に到達するも、あまりの吹きさらしの大風に、記念撮影そこそこにすぐに下山しました。

途中からは、時折青空も見えたり、お天気にもなってきた、午後5時前の下山となりました。

今回も、ステッキの使い方など、ご指導いただきながら、無事に楽しく登山させていただけたことに感謝しています。ありがとうございました。

参加者 9人

会員：リーダー赤瀬榮吉、高島拓生、大内喜代子、森本信子、榊俊一、縄手修、森義雄
支部友：中野裕美、網塚陽子



三郡山山頂にて

12月20日(土) くるみ小屋宿泊山行「北浦スカイライン縦走」 久しぶりの再会でにぎわう!

13532 馬場基介



あと懇親会がはじまる。メイン料理は女性会員の調理、地産の猪鍋とシカ肉、広島カキ、豊前カキを囲炉裏を使い、バーベキュー、話題も弾み、山の歌もでる。久々にお会いした方もいましたので昔の山行に花が咲きました。大変楽しいひと時でした。

翌日の山行もあり、各自1階・2階・車泊にわかれ消灯。

外に出ると、北斗七星・オリオン座など満天の星が見える、明日

山口県西部鬼ヶ城登山に参加しました。ハードな行程のため、前日は鬼ヶ城登山口の近くにある山小屋「くるみ小屋」に泊まり、翌日早朝から山行に出発する計画です。

くるみ小屋は会員の井上氏が会長を務める下関山岳会の所有する施設で、設備・規模など私がかこれまで見た中では、最高の物件です。くるみ小屋には3年ぶりに泊まりました。鬼ヶ城中腹の展望所にベ

ンチを設置する作業に参加協力した時以来です。

12月20日午後4時30分集合(料理班は1時間前集合)、午後5時30分懇親会開会、各方面から19人の参加です。

はじめに伊藤支部長より、来年度の本部事業・支部事業などの取り組みについて(本部110周年記念事業、支部15周年記念事業)積極的な推進を述べられた。

続いて井上氏の歓迎のあいさつの

の山行が楽しみだ。

参加者：19人(宿泊者)

会員：園川陽造、日向祥剛、井上佑、原広美、伊藤久次郎、馬場基介、関口興洋、中村昭彦、内藤正美、大木康子、榊俊一、稲富榮、竹本正幸、縄手修、森義雄、大谷恵美子、倉本とき子

支部友：加藤信子、

ビジター：篠田勝行(元会員)

定例山行 12月21日(日) 鬼ヶ城(619.6m) 急坂の道なき道をくだる

北九463 加藤 信子

12月20日(土)から21日(日)の北浦スカイライン縦走に参加しました。天気予報は前日は雨。当日は曇りから雨マークだった。それでも仲間に会える喜びの方が大きかった。

20日(土)16時前、くるみ小屋に到着。愛着のある名前と建物がマッチしていた。持ち主の下関

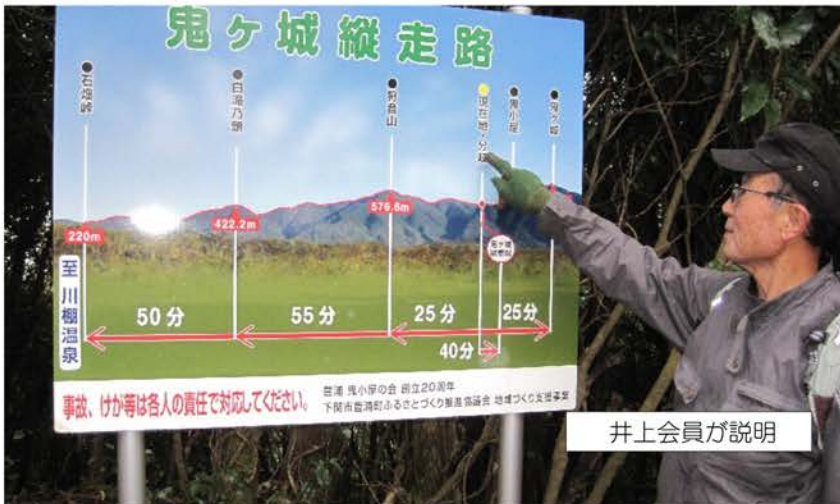
山岳会が羨ましかった。

すでに、下関・北九州方面の女子群が腕をふるい準備してくださったシシ鍋、焼きカキに舌つづみをうち、いろいろを囲み、酒をくみかわし、初めてお会いした大先輩、久しぶりに再会した仲間と積もる話がはずんだ。

その話の節々に登山の経験と

知恵を伝授していただき、この上なくありがたかった。

いろいろの煙が目に沁みながら発電機やランタンで明かりをともして、子供だった頃の生活がよみがえり、懐かしかった。この輪の中にいる自分がとにかくうれしかった。そのうち、自然に歌の合唱。



当然、山の歌が多かった。私の知らない歌も多く、心にしみる歌詞にメロディー。この中にも諸先輩方の山登りの歴史を感じた。ハリがあり、良く通る声で歌える井上会員、歌というのはこうして歌うもんだよとプロの指導者の声が聞こえてきそうなほど、歌詞の内容をかみしめて歌う篠田さん・・・こうして小屋全体が暖かい空気に包まれて、心も胃袋も満たされ、寝袋に入ったもののなかなか寝つかれなかった。

次の日(21日)曇り、前夜からの泊まり込み14人と当日参加の太田満さん、森本信子さんが合流し、山行は16人で8時すぎくるみ小屋を出発。リーダーは井上佑さん、先頭は内藤さん。直前に雪がちらつき身が一層引きしまり、筋肉に「しっかりついていくんだゾ」と言い聞かせ、鬼ヶ城山頂に向かった。

途中、鬼ヶ城山頂で折り返す班

とそのまま進む班に分かれた。あまり、手の加わっていない雑木林にフカフカの腐葉土。私の好きな感触を楽しみながら進んだ。鬼ヶ城の山頂は名前とはうらはらにかわいい鐘が設置されていた。海と山が一望できしばし美しい眺めに見とれていた。汐見岩までは、一層急斜面のアップダウンが続き、湿った地面がそれに拍車をかけ、あちこちで滑って転んだ。先輩の方は転び方がしなやかでグニューツと転んでもスックと立ち上がり、何事もなかったかのように、また進みだす。私は転ぶたびに「キヤー」とぎょうらしい(仰々しい)声を発し、回りが声にビックリするから「出すな」と言われても直らない。出すまいと思う前に出ているようです。「ここは変な鳴き方をするシカがいるね、私じゃないよ」と苦しい言いわけ？

計画では竜王山まで行く予定であったが、登りの急登が足場も悪

いので汐見岩で折り返すことになった。帰りは足首に鉛でもつけられているように感じながらやっと鬼ヶ城山頂までたどり着いた。ここから、くるみ小屋までは道なき道を下ろうということになった。

枝やつたをかいくぐり腐葉土の急斜面を思い切りのめりこみながら。子供の頃の冒険心がよみがえり子供にかえれて楽しかった。

途中、下りすぎたため、方向を修正しながら、谷越え、尾根越え？

ぬかるみや放置状態の竹林を進み・・・くるみ小屋の駐車場が見えたときにはホッとした。途中、イノシシよけの柵を越えそこない、派手に転んだ。起きあがるとき、しかとシカの糞をにぎりしめていた。あーこれで、また運がついたかな？ みんなの姿を見ると、靴やズボンは泥にまみれ悪戦苦闘した跡がうかがえた。

午前8時20分に出発して午後2時すぎにくるみ小屋へ到着した。

道中行動食を補給しながらだったためか、お腹の空いたのもとありこした感じで満足感で満たされていた。登山靴の泥を落とすタワシ持参の縄手さん。私もお借りした。これからは私の登山靴にもメンテナンスすることを肝に銘じた。最後の最後まで教えられた。くるみ小屋の主、井上さんにお礼のあいさつをし、またの再会を約束して帰路についた。

準備段階から多くの人に支えられて充実した1泊2日の山行でした。本当にありがとうございました。



参加者： 16人

会員：リーダー井上佑、内藤正美、原広美、伊藤久次郎、馬場基介、関口興洋、太田満、中村昭彦、大木康子、森本信子、縄手修、森義雄、大谷恵美子、倉本とき子

支部友：加藤信子

ピジター：篠田勝行(元会員)

11月6日(木) 宇都宮家の歴史をめぐる ～城井ノ上城跡から大平城を訪ねる～ 北九472 町元 里香



城井ノ上城跡入口で

J A C北九だより第70号に丹下治会員の書いた「大河ドラマ軍師官兵衛が攻めて落ちなかった宇都宮鎮房の城」を読んでいると「個人山行のお誘い」が目飛び込んできた。以前より興味があった城井ノ上城跡、そのうえ日程が運さいのこじょうあと良く11/6(木)だ。「仕事が休みだ！参加できる！」

11月6日快晴。午前10時に牧の原キャンプ場に集合し、参加者の確認後登り口近くに車を駐車し、午前10時30分城井ノ上城跡登り口を出発する。

足元の悪い登山道を5分程登っていくと表門に到着。出入り用の岩穴以外は岩に囲まれていて、天然の要塞の迫力に圧倒させられた。それから植林帯を登っていくと10時45分城井ノ上城跡に到着。

さらに登っていくと石で造られた炭窯跡がいくつかあった。これらの炭窯は戦後昭和20年代につくられて、昭和30年代まで使用されていたそうだ。さらに少し急な山道を登って11時裏門下に到着。右上に見える光の穴が裏門である。その荘厳さに圧倒されてしまった。左前には番人の穴があり私は見張

られているような錯覚をおぼえた。裏門に進むには20位の崖を登らなければならない。両方に鎖はあるが左側の鎖は少しぐらぐらしている。足場がきつてあるので3点確保を頭の中で繰り返しながら着実に登って行った。5分程度だったが初めての岩場だったので緊張した。

11時5分裏門に到着。裏門の洞窟には大きな榎の木があり、見上げると木漏れ日がきらきらしていた。少し休憩をとり出発する。急斜面に張られたロープをたよりに下っていくと沢に着く。まだ紅葉していないが緑の葉が美しい石だきもみじを左手に見ながら小さな沢を渡る。それから沢沿いを下山する。緩やかな下り坂だが足場が悪い。うす苔がはえて滑りやすい。砂防ダムを2つ通り11時30分林道に入る。

少し下ると右手に他城のいろはもみじにひきつけられて足を止めた。紅葉し始めたばかりで緑と黄と赤色の葉のコントラストがすばらしい。少し道草してしまい11時40分駐車場に到着した。

約1時間の山歩きだったが、い

ろいろなことを経験することができた。車で牧の原キャンプ場まで移動し昼食。きれいに整備されたキャンプ場で夏休みには城井川で水遊び、昆虫採集などをして、にぎわっている子供たちの姿が目についた。キャンプ場の売店で買った山椒入り酢味噌は職場で意外と好評だった。

昼食後大平城に立ち寄った。大平城入り口に車を駐車して午後1時20分に出発。足元の悪い急登を登っていく。まさしく本丸にふさわしい険しい山頂には午後1時30分到着。まわりの風景は植林でほとんど見えないが、木々の間から少しだけ遠くの山がみえる。転げ落ちそうな急な坂を下山する。滑らないように歩幅を小さくして少しずつおりていく。午後1時40分駐車場に到着し、午後1時50分に解散した。

帰り道、宇都宮家の菩提寺である天徳寺に立ち寄ると、サラシナショウマの白い花が出迎えてくれた。午後2時30分帰路につく。

本当に盛りだくさんな山行だったとあらためて思いかえす。

この山行を計画していただいた丹下ご夫妻に感謝いたします。本当にありがとうございました。

参加者 16人

会員：リーダー丹下治、丹下香代子、伊藤久次郎、原広美、井上禮子、大木康子、竹本加代子、大谷恵美子、奥田スマ子

支部友：坂本勝喜、坂本むつみ、町元里香

ビジター：河野健一、佐々木憲一、前田正章



投稿

歴史への山旅

ビジター 河野健一

●馬ヶ岳城跡

九州平定をめざす豊臣秀吉が、黒田官兵衛を九州最初の居城である豊前馬ヶ岳城に送ったのは、天正14年(1586)であった。

馬ヶ岳城跡(標高216m、行橋市)は、山麓部分の土塁、畝上竪堀や堀切など石垣を使わない往時の防衛跡を確認できる歴史に名を残す山城である。

東側の二の丸跡からは、眼下に周防灘、北九州、豊前平野を見渡すことができ、戦略上の重要拠点であったと納得できる。帰りは御所ヶ谷神籠石で有名な御所ヶ岳(246m)経由で下山した。

この地域は戦国時代の地方豪族が群雄割拠するなかで、大友氏、大内氏、毛利氏などの戦場としての要衝であり、官兵衛は馬ヶ岳城を拠点に地元反対勢力の平定を進めている。秀吉も立寄ったとされる馬ヶ岳は、歴史的にもなかなか興味深い史跡である。

(平成26年2月10日)

●城井ノ上城跡

平成26年11月6日、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の戦闘場面の城井宇都宮鎮房の山城を散策した。国道20号線から20kmほど長閑な田園地帯の城井谷をさかのぼり、英彦山が聳え立つ山裾に城井ノ上城跡(築上町寒田)はある。

切り立つ山々に挟まれ、岩穴の通路や急峻な狭い山道を登らないと本丸にたどり着けない天然の要塞、黒田長政が難攻不落とした山城である。

今は大平山頂に築かれた本丸跡への登り口までは、林道を車で行くことができる。鎖やロープを伝わっての岩登りや急傾斜の下り坂

があり、大きな岩石の間を通る足元の悪い一周コースである。

途中に珍しいヒイロチャワンタケなどやイロハモミジの紅葉をめでたり、秋が少しづつ深まって来ていることを感じた一日でした。

宇都宮一族は源頼朝から平家一族を攻略するため関東から派遣された武将で長くこの地を治めていたが、秀吉から官兵衛にこの地を与えられ、鎮房の伊予国へ転封を命ぜられたのを不服としての戦いでした。黒田勢は攻めきれずに和睦し、官兵衛の家臣となったが、その後鎮房が中津城で長政に謀殺されました。城井谷村民が、鎮房の命日に野イバラを城跡に挿し、黒田氏断絶の祈りが二百年も続いたとされる風習、中津城の惨劇で生まれた合元寺赤壁伝説や黒田一門の数奇な運命等々が今なお地元で伝わっており、数尽きない歴史の奥深さを思い知らされました。

●長岩城跡

平成26年11月13日、宇都宮信房を宗家とする野仲氏居城の長岩城跡(標高592m、耶馬溪町川原口)大分県指定史跡の山城を散策する。

国道212号添いの耶馬溪支所前

から山国川を右折して8kmほど津民川をさかのぼり、永岩小学校下の登山口に到着。城主野仲鎮兼は下毛郡の豪族で大友宗麟の大軍(3000人)と勇猛に戦い和睦した後、黒田長政3500余騎の大軍に落城しました。城は天然の要塞として支峰、断崖や谷窪を巧みに取り入れて、鉄平石を積み上げた石塁(20余カ所で計700m)、砲座や塹壕など400年以上経った現在も往時の状態で残っているのは圧巻であった。

城跡は、岩山頂上に銃眼とみられる3カ所の穴のある石積櫓、弓形砲座、竪堀、陣屋跡や腰曲輪の本丸跡など静かに悠久の昔がしのべれます。陣屋は屏風のような岩山と切り立った深い谷に囲まれ、城の入口からは狭く、足場の悪い谷間で敵の進入を防いでおり、まさに山城の特徴を良く備えていることが確認できる。全国にも類例をみない貴重な中世城郭の遺構とすることで、往時の武家社会に思いはせる、一度は訪れてみたい史跡である。

歴史の山旅を企画、ご案内していただいた日本山岳会北九州支部の皆さまから城跡や草花の丁寧な説明を受けながらの楽しく、有意義な山旅でした。誠にありがとうございました。

下関市 河野健一 (ビジター)



長岩城跡

ルーム 当番

会員は警備室からキーをもらって入室できます。

書籍や資料を当番ご利用ください(利用時間:午前10時30分~午後3時まで)

連絡先:山田武史(TEL.092-844-3563)



27年1月

2月

3月

日付	当番	日付	当番	日付	当番
1日(木)	/	1日(日)	/	1日(日)	/
2日(金)	/	2日(月)	丹下	2日(月)	丹下
3日(土)	/	3日(火)	関口	3日(火)	
4日(日)	/	4日(水)	伊藤	4日(水)	伊藤
5日(月)	丹下	5日(木)	森	5日(木)	
6日(火)	関口	6日(金)		6日(金)	
7日(水)	伊藤	7日(土)	/	7日(土)	/
8日(木)		8日(日)	/	8日(日)	/
9日(金)	森	9日(月)		9日(月)	丹下
10日(土)	/	10日(火)	関口	10日(火)	関口
11日(日)	/	11日(水)	/	11日(水)	伊藤
12日(月)	/	12日(木)		12日(木)	竹本
13日(火)		13日(金)		13日(金)	
14日(水)		14日(土)	/	14日(土)	/
15日(木)	木原	15日(日)	/	15日(日)	/
16日(金)	森	16日(月)	丹下	16日(月)	丹下
17日(土)	/	17日(火)	関口	17日(火)	
18日(日)	/	18日(水)	伊藤	18日(水)	森
19日(月)	丹下	19日(木)	竹本	19日(木)	
20日(火)	関口	20日(金)	森	20日(金)	
21日(水)	伊藤	21日(土)	/	21日(土)	/
22日(木)	竹本	22日(日)	/	22日(日)	/
23日(金)		23日(月)	丹下	23日(月)	丹下
24日(土)	/	24日(火)	関口	24日(火)	関口
25日(日)	/	25日(水)	伊藤	25日(水)	伊藤
26日(月)	丹下	26日(木)		26日(木)	森
27日(火)		27日(金)	森	27日(金)	
28日(水)	伊藤	28日(土)	/	28日(土)	/
29日(木)	竹本			29日(日)	/
30日(金)				30日(月)	丹下
31日(土)	/			31日(火)	

ルーム日記

10月

- 08日 支部報(10月号)発送
封筒つめ発送(4人)
- 14日 10月分賃料支払(馬場)
- 15日 藤原会員CD返却
- 20日 故元秦野会長様の遺品(登山用具)
大城戸さんから持ち込み
(忘年の集いにてオークション予定)
- 24日 DVD「ザ・修験道」を書棚に保管
- 27日 毎日新聞報道部から「山の記念」
紙面掲載を紹介される

11月

- 05日 定例役員会議(18:00~)
- 06日 平野和則さん入会希望者来室、入会
申込書記入(森立会い)
- 17日 大楠会員からオークション出品の
寄贈、搬入。
- 18日 北海道支部通信の連絡あり
(プリント出力要)
- 26日 入会問い合わせの方が来室
- 27日

12月

- 01日 千葉支部報到着
- 12日 忘年の集いの打ち合わせ(オークシ
ョンの出展品の持ち込み運搬、進行ス
ケジュール確認)(大内、竹本、森)
- 14日 忘年の集い備品借用品の返却
オークションでの支部用品返却
- 19日 くるみ小屋山行に伴う備品の搬入
関西支部報、千葉支部だより、高尾
の森通信到着
- 22日 くるみ小屋山行備品などの返却
- 26日 ルーム年末大掃除
(丹下洽、丹下香代子、森)

会 務 報 告

●平成26年度11月役員会報告

- ・日時：平成26年11月5日(水)
- ・場所：当支部ルーム(毎日会館 1F)
- ・出席者：伊藤、大楠、馬場、山田、丹下、竹本、池田、木原、縄手、縄田、森
- ・欠席者：関口、日向、板倉
- ・訃報：9月10日 元支部長 秦野一彦様が逝去され、黙祷。
- ・会務報告：平成26年9月20日(土)～21日(日)、東京四谷「プラザエフ」会議室で開催された「平成26年度支部合同会議」に伊藤支部長と山田事務局長が出席し、報告があった。(H26.10月支部報で報告掲載済)

・議題

(1) 会員の異動状況(11月5日現在)

通常会員：75人(+ 1人)元支部長秦野さん逝去、
通常会員へ2人(奥田スマ子、三浦利夫)
支部友：59人(△2人)支部友から通常会員へ
2人異動、入会1人(坂田菊恵)
会友：4人(+ - 0)
計138人

(2) 会費納付状況

(3) 山行・行事実績

9月7日(日)大日ヶ岳～釈迦ヶ岳 15人参加
9月28日(日)岩登り教室 11人参加
10月11日(土)～12日(日)広島支部との交流登山
(由布岳)台風で中止
10月18日(土)～19日(日) 全国支部懇談会
(埼玉支部主管) 5人参加
10月20日(月)谷川岳5人参加
10月19日(日)岩登り教室(陶ヶ岳)10人参加
11月3日(月)比叡山(宮崎支部と同行動)13人参加
11月1日～3日中高年安全登山指導者講習会
2人参加(竹本、塚本)

(4) 山行・行事計画

11月16日(日)孔大寺山～湯川山
12月2日(火)宝満山～三郡山
12月6日(土)年次晩餐会(新宿 京王プラザ)
12月13日(土)竜王山
12月13日(土)当支部の年忘れの集い
(下関シーモールパレス)
12月20日(土)～21日(日)くるみ小屋泊～北浦スカ

イライン

平成27年1月11日(日)英彦山冬山訓練

1月18日(日)足立山～戸ノ上山縦走

(5) 指導員養成講座の開設について

12人申込み(9/23試験) 4人未受験

(6) 支部創立15周年(来年度)のイベントについて

①海外登山(日向)マナスルトレッキング
(現地5日間)

②国内登山(竹本)北アルプス全山縦走案

③写真・絵画展(伊藤)

(7) 支部規約の改定案について

支部友制度のあり方検討

(8) 安全登山・遭難対策のルール作りについて

支部山行計画書の本部提出の義務化に伴い、
2人の留守本部が必要。

支部でも個人ごとの緊急連絡票を提出させる。
山行委員会で議論する。

(9) ルーム維持資金の捻出策について

忘年の集いでカンパの呼びかけを行う。

(10) その他

11/9(日)天拝山清掃登山(福岡支部主催)

の参加者募集

スキー講習会(北海道)のスケジュールは12月
忘年の集いで告知を行う

次回の役員会は、H27.1/7(水)の予定

=会員の異動及び入会など=

○新入会員(10月～12月)支部友から通常会員

15616 奥田 スマ子

15624 三浦 利夫

15646 塚本 久嘉

15650 倉本 とき子

○新入会員(10月～12月) 支部友会員

北九481 平野 和則

山岳共済会の山岳遭難・捜索保険

契約者：日本山岳協会山岳共済会

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

日本山岳協会山岳共済事務センター

・保険のお問い合わせ

月～金 10:00～17:00

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

◇◇◇月例山行のご案内◇◇◇

支部会員、支部友会員による県外山行(北九州支部エリア外)は「登山計画書」を必ず事務局に提出しましょう。

平成27年1月の山行

●足立山(597㍍)～戸ノ上山(517.㍍)

と き：1月18日(日)

集 合：8時30分 妙見神社登山口前

行 程：妙見神社～足立山～戸ノ上山～戸ノ上神社

申込み：馬場 (TEL093-371-8656)

締切り：1月10日

※戸ノ上山頂にて戸ノ上登山会との交流会：猪鍋

※なお、前日NHK天気予報で降水確率60%以上の場合は中止とします

平成27年2月の山行

●八ヶ岳(冬山登山合宿)

と き：2月7日(土)～12日(木)

場 所：八ヶ岳(2899㍍)阿弥陀岳(2805㍍)

行 程：

2/7北九州～多賀SA～美濃戸口～2/8赤岳鉱泉

2/9赤岳鉱泉～地蔵尾根～地蔵の頭～赤岳～中岳～阿弥陀岳～赤岳鉱泉

2/10赤岳鉱泉～美濃戸口～多賀SA～2/11北九州

2/12予備日

※2/9の登山は6:00～15:00の予定

※現地には車で移動

その他 装備、食糧などの具体的計画、行程等も参加者が決定し、集まり打ち合わせを行う

申込み：竹本 (TEL0930-28-9611)

締切り：11月30日(既に締め切りました)

平成27年3月の山行

●血倉山～福智山から採銅所(山中宿泊訓練)

と き：3月21日(土)～22日(日)

集 合：9時 血倉山登山口駐車場

行 程：血倉山登山口駐車場～帆柱山～

採銅所登山口(歩程：5時間30分予定)

携行品：昼食、飲料水、雨具、ヘッドランプ、

帽子、手袋(厚手)、テルモス、行動食(非常食含む)、地図、コンパス、保険証、ストック、下山後の着替え他

申込み：縄手(携帯090-2854-3149)

締切り：2月25日

その他 具体的計画、行程等も参加者が決定し、集まり打ち合わせを行う

平成27年4月の山行

●花尾山(山口県：669㍍)

と き：4月5日(日)

集 合：7時30分 JR長府駅前

行 程：花尾山登山口～花尾山頂～下山口(往復)(約2時間50分)

責任者：大木・大内

申込み：大内(携帯090-4695-5842)

締切り：3月25日

スキー講習会

●九重スキー場講習会

と き：2月中旬

2/16から2/21の間で、2日間(宿泊1日間)

場 所 九重スキー場

行 程：1泊2日

初日：北九州から車で移動し、午後から講習会
宿泊は九重長者原周辺温泉

2日目：午前中講習会、午後2時解散

申込み：池田智彦(スキー部長)

連絡先 森義雄(携帯090-4475-7799)

その他：参加者決まり次第、日程調整をします。

【お知らせ】

1月中旬北海道ニセコスキー場講習会は申込み参加者がいなかったため中止となりました。



お知らせコーナー

◆◆◆ 参加者大募集 ◆◆◆ 4月26(日) 英彦山清掃登山

- 1.と き：4月26日(日)
- 2.集 合：9時30分 英彦山別所駐車場
- 3.申込み：山田：森 (携帯090-4475-7799)
- 4.締 切：4月15日(水)

平成27年度全国支部懇談会 4月11日(土)～12日(日) ※申し込みは通常会員のみ

- 1.と き：4月11日(土)～12日(日)
- 2.集 合：開式13時30分
- 3.会 場：香川県高松市喜代美山荘「花樹海」
(JR四国高松駅からタクシー10分)
- 4.参加者：日本山岳会会員及び関係者
- 5.費 用：19,000円(1泊2食・懇親会会費含む)
- 6.スケジュール
 - ★1日目(11日)
 - 12:00 受付開始
 - 13:30 開会式
 - 13:40 ~ 16:20 講演会
 - ①「小島鳥水 高松と江戸」 平井宥慶氏
 - ②「四国の山はなぜ美しい」 石川道夫氏
 - 18:00 交流会
 - ★2日目(12日)
 - 2班に分かれての記念山行
 - ①登山(A) 登山(飯野山)と観光
 - ②登山(B) 三嶺(1894年)
- 7 問い合わせ先 事務局 山田武史
- 8 申し込みは、1月末まで
森 (携帯090-4475-7799)

関西支部設立80周年記念式典 5月30日(土)～31日(日) ※申し込みは通常会員のみ

- 1.と き：5月30日(土)～31日(日)
- 2.集 合：開式13時30分
- 3.会 場：兵庫県神戸市ホテル北野プラザ「六甲荘」
- 4.参加者：日本山岳会会員及び関係者
- 5.費 用：21,000円(1泊2食・懇親会会費含む)

6.スケジュール

- ★1日目(11日)
 - 13:30 受付開始
 - 14:30 開会式
 - 13:40 ~ 16:20
フォーラム「但馬が生んだ孤高の登山家、
加藤文太郎と植村直己
 - 18:00 交流会
 - ★2日目(31日)山行参加料3000円(別途)
 - 3班に分かれての記念山行
 - ①登山(A)登山(六甲山約4時間)
 - ②登山(B)登山(六甲山約3時間半)
 - ③散策(約2時間)
- 7 問い合わせ先 事務局 山田武史
 8. 申し込みは、1月末まで
森 (携帯090-4475-7799)

2月1日(日)岳人のつどい 「山の映画上映会」と懇親会を開催 主催：日本山岳会 福岡支部

- 1.日 時：2月1日(日)14:00～18:30
- 2.会 場：太宰府館・まほろばホール
太宰府市宰府3-2-3 (TEL092-918-8700)
(西鉄太宰府駅下車徒歩2分)
- 3 会 費：上映会会費500円、懇親会費4000円
- 4 スケジュール
 - ①映画「盲目のクライマー」上映会と
ヒマラヤ・トレッキング・スライド映写会
(14:00～16:00)
 - ②懇親会(岳人のつどい新年会)(16:30～18:30)
- 5 問い合わせ先・申し込み先
日本山岳会福岡支部事務局
(アルパインツアーサービス内)
TEL 092-715-1557、FAX 092-715-0826
※映画希望者は、1月26日までお申込みください。
(先着150人まで)

「坊がつる讃歌」歌碑建立 寄付金の依頼

建立発起人会(代表坂本和昭)から歌碑建立に伴う寄付金の依頼がありました。
この寄付については任意でお願いいたします。
支部報に同封いたしますので、詳しくは趣意書をご覧ください。

事務局

サロンルーム

小倉 サロン

会員・支部友ならだれでも
気軽に参加できます!!

場 所: 小倉北区魚町「コール天」
申込み: 事務局山田武史(携帯090-6422-5662)

- 1月28日(水) 午後6時から
DVDビデオ上映「冬季登攀技術編」
企画・制作 登山技術映像制作委員会
- 2月25日(水) 午後6時30分から
ロープワーク実技 20分 竹本指導員
- 3月25日(水) 午後5時30分から
DVDビデオ上映「南北交流登山・北海道支部
と北九州支部」
2007年3月制作 北海道ニセコの雪洞造り
と宿泊体験などの記録
- 4月22日(水) 午後6時から
ロープワーク実技 20分 竹本指導員

博多 サロン



1. 2月5日(木)18時30分より
・場所: 博多区吉塚本町 13-55
サンヒルズホテル内 居酒屋「呑多来」
・申込み: 榊 俊一 (携帯090-8416-4194)

●お詫び(前月号の記事の誤り)

P 22 「安全登山講習会」は、
「中高年安全登山指導者講習会西部地区」
が正当

P 23 新入会員(7月~9月) 支部友会員
北九477 「中野裕子」は「中野裕美」
北九478 「永野敏子」は「永井敏子」
が正当
訂正させていただきます。

今月号は紙面数の関係で目次は省略
させていただきました

= 山岳会員(支部友)募集 =

1. 入会金: 1,000円
2. 年会費: 3,000円
3. 毎月、月例山行を実施しますので初心者の方
でも気軽に参加できます
4. 支部報を郵送します(3カ月に1回発行)
連絡先: 山田武史(携帯090-6422-5662)

編集後記

新年となりました。今年は支部創設15周年となる記念の年です。記念事業としての会員が参加できるイベントを役員会で考えています。

会員の皆さんも、何か良い企画があればぜひご提案ください。

また、今年は本部110周年、関西支部80周年、北海道支部50周年、宮崎支部30周年など記念事業を開催する本部・支部が多いようです。

北九州支部も記念事業を成功させましょう!



- 小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
- TEL: 093-522-0565
- JR鹿児島本線 小倉駅南口から
中央銀天街方面に向かい徒歩5分
北九州支部は毎月(第4週水曜日)の
サロンルームでお世話になっています

